

総務ワークフロー基盤

社内イントラネット基盤をNotes/Liferayからイントラマートに移行し 総務ワークフローをはじめグループ各社への共通基盤整備を実現、 インフラ基盤にはAWSを採用

損保ジャパンでは、ワークフローとニュース掲示板等にNotes、ポータルにLiferayを活用したグループウェアシステムを利用していましたが、現行システムの老朽化に伴いイントラマートへの移行を行いました。

基幹系以外のシステムはパブリッククラウドを活用する方針であり、構築、運用に関するガイドラインを整備し、認定クラウドとして活用推進しているAWS上に移行することになりました。

移行プロジェクトは損保ジャパンだけでなく、SOMPOひまわり生命、SOMPOシステムズも同時期に実施しました。今後もITガバナンスの3大目標である「資源最適化・リスク最適化・効果実現」を目指してSOMPOグループ横断での「業務のデジタル化」を推進していきます。

※1: Amazon Web Services

SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部
荒巻さまのコメント

- 損保ジャパンだけでなく、SOMPOひまわり生命、SOMPOシステムズでも同じシステムで運用を行うことが可能となり、グループ全体での資源最適化・運用効率が向上しました。
- グループでの認定クラウドとして活用しているAWSを利用することにより、リソースをオンデマンドで利用可能となると共に、運用リソースを共有化でき、TCO削減に期待ができてと思います。
- AWS利用によりDR環境を容易に構築することができました。

課題

イントラマート基盤の性能面の懸念、構成面の課題

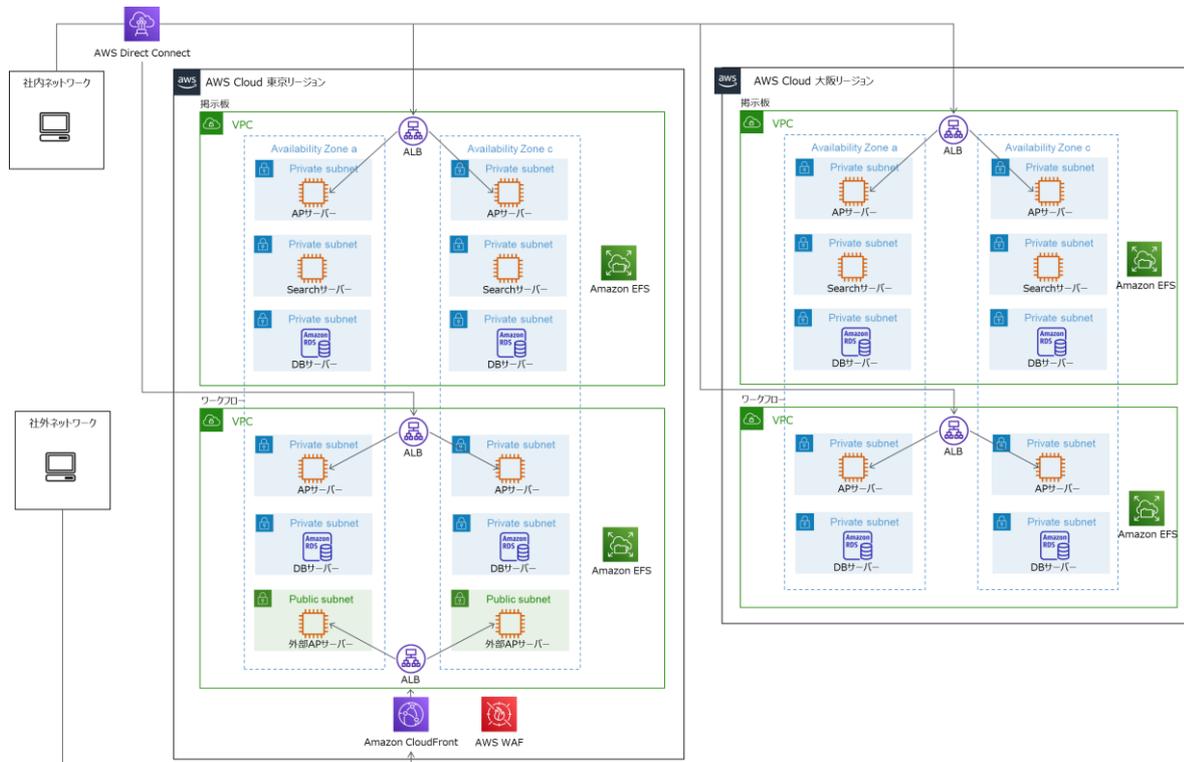
- (1) 本プロジェクトはNotesからAWS上のintra-martへの移行となり、数十台規模のオンプレミス環境で稼働していた当該システムのイントラマート基盤上での性能面の懸念があった。
- (2) 構成面・機能一体、機能分離、会社分離のいずれの構成とするかポリシー設定の課題があった。

対策

十分な性能検証を行い、AWS活用によりDR環境を容易に構築

- (1) イントラマート基盤の性能検証
 - ・オンプレミス環境で稼働していた当該システムのイントラネット環境を、Amazon EC2 (以下、EC2) で構成したパブリッククラウド環境にイントラマートをアプリケーション基盤とした移行を実施。
 - ・事前に性能検証を行いその結果に基づくサイジングを実施。主な検証ポイントは「ネットワークの帯域」「APサーバの処理性能」「DBサーバの処理性能」で、上記に関連するAWSの処理性能 上記の測定結果に基づき各サーバのサイジングを実施。
合わせてAWS活用によりDR環境を容易に構築。
- (2) 損保ジャパンだけでなく、SOMPOひまわり生命、SOMPOシステムズでも同じシステムで運用を行うこととし、グループ全体での資源最適化・運用効率の向上を図る。

■ システム構成図



効果

グループ共通展開による運用効率向上

- 4つのアプリケーションで構成していたグループウェアシステムをイントラネットと他のクラウドサービスの2つに集約でき、メンテナンスの効率が向上。
- 損保ジャパンだけでなく、SOMPOひまわり生命、SOMPOシステムズでも同じシステムで運用を行うことが可能となり、グループ全体での資源最適化・運用効率が向上。
- 基盤としてAWSを認定クラウドとして活用を推進しているAWSを利用することにより、リソースをオンデマンドで利用が可能となると共に、運用リソースを共有化でき、TCOを削減。
- AWS利用によりDR環境を容易に構築することができた。

お客さま概要

損害保険ジャパン株式会社

[所在地] 東京都新宿区西新宿1-26-1

[社員数] 23,447名 (2021年4月1日現在)

[事業内容] 国内損保事業、海外保険事業、国内生保事業

ホームページ: <<https://www.sompo-japan.co.jp/>>

■ 特記事項

- AWS、Amazon Web Servicesの商標は、Amazon.com, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。
- 掲載記事の無断転載を禁じます。

お問い合わせ

日立製作所